

戦中・戦後の台所におけるステンレス流しについて ～特許・実用新案、『工芸ニュース』を事例として～

日大生産工（院） ○柳田 伸幸
日大生産工 藤谷 陽悦

1 はじめに

我が国におけるステンレス流し^{注1)}の全国的な普及は、1956年に日本住宅公団とサンウェーブ工業株式会社（以下、S社とする。）が公団住宅への納入契約を結んだことにはじまる。ステンレス流しの普及には、台所メーカーによる大量生産化の成功が必要不可欠であり、大量生産化に成功したステンレス流しの普及は戦後の家庭生活のイメージを一新する、重要な役割を担ってきた。

ステンレス流しの大量生産化は、戦後の、大量生産時代への変革を支えた、重要な開発事例であり、ステンレス流しの技術革新の内容を明らかにすることは重要な意義があると考えられる。

これまでも戦後の台所史において、ステンレス流しについて大枠な発展史の視点から体系づけた報告は成されてきた^{注2)}が、ステンレス流しそのものに着目して、技術革新という観点から家庭用台所の変容を考察したものほとんど見当たらない。

1-1 研究の目的

そこで本研究では、戦後の家庭生活を変革させた、家庭用台所、とりわけステンレス流しに的を絞って、ステンレス流しの技術革新の内容を明らかにすることとする。

筆者らは、前稿^{注3)}でS社から提供頂いた開発史料『見聞録』^{注4)}を元に、ステンレス流しの開発経緯を検証した。その結果、家庭用台所の技術史において、大量生産化を成功させた要因として、素材の革新と、生産ラインの機械化を挙げて考察をしてきた。

本稿ではそれに対して、ステンレス流しの開発成功以前（戦前期）における、流し素材の変容過程・ステンレス素材の使用の有無・流し台の施工方法・一般庶民のニーズの動向について検証する。

1-2 研究の方法

研究の方法として、S社が開発に成功した1956年以前の「特許実用新案」の史料を特許庁電子図書館で収集し、特に流しの素材と施工法に着目して、プレス機を使った流しの開発事例の有無を考察した。

さらに、大量生産化された流し台の登場期、及び登場以前の流し台を『工芸ニュース』を資料として、その体系的な位置づけを試みた。

その時代区分としては、『工芸ニュース』が創刊された1932年から1956年迄を対象として検証を行った。

そして最終的に、それら史料の比較を通して、日本のステンレス流し台が登場する以前の金属系流しの特性を明らかにした。

2 特許・実用新案から見る戦前期の流し素材の変容・ステンレス流しの登場

2-1 特許庁データベースについて

最初にS社のステンレス流しの開発以前にステンレスという素材がどれだけ使われていたか、またどのような使われ方をしていたかを、特許庁データベースに基づいて検証した。特許・実用新案については、その蓄積範囲は古いもので、1906年6月から現在まで有り、蓄積範囲が広く、現在の企業においても利用されている。そこから知れる範囲を検証すると、

①申請された記述内容から当時の詳細を検証できること。

②1956年にS社によって実際に申請が行われていること。（図1）

③S社の社内史料『見聞録』でも「ステンレス深絞り流し台は特許製品となった^{注5)}」と記述されていること。

以上のことが判る。このことから、国内生産によるステンレス流しの登場時期、1956年以前の流し台素材の変遷を検討する史料として適切であると考えられる。時代区分としては、特許・実用新案データベースが保有する1906年6月から、S社が最初にステンレス流しを発売する1956年までを含めた1906年6月1日から1956年12月31日迄を対象とする。

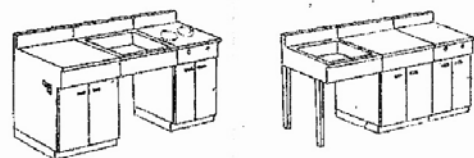


図1 特許庁に申請されたS社の「ステンレス流し」

※特許庁データベースより

2-2 特許庁データベースからみた1956年以前の台所

特許庁データベースを1906年～1956年についてまとめたものが表1である。表1は特許庁電子図書館データベースより特許分類検索を用い、FI&FIターム^{注6)}

A study on stainless steel sink during the second World War and the postwar
－ As an example A patent utility model and 『Industrial arts news』 －

Nobuyuki YANAGIDA, Youetsu FUJIYA

表 1 特許・実用新案リスト ※特許庁データベースを基に作成

整理番号	名称	出願日	考案者	出願者	流しの材料
実公明39-002542	改良折畳浄槽	明39.5.27	黒田約	記述なし	亜鉛
実公明39-002797	不明	不明	不明	不明	不明
実公明39-002798	台所浄槽	明39.6.12	田中菊次郎	記述なし	木
実公明39-002965	走り	明39.8.5	和田定七	記述なし	不明
実公明40-005556	走り	明40.3.10	折本豊吉	記述なし	鋳鉄
実公明42-013904	亜鉛版製流し	明42.6.1	河口清作	記述なし	亜鉛
実公明42-015545	衛生五徳流し	明41.4.7	讃岐吉之助	記述なし	亜鉛
実公明43-017710	人造石走り	明43.3.24	阪安次郎	記述なし	人造石
実公明44-020213	鋳鉄製流し	明43.11.9	井上興三郎	記述なし	亜鉛
実公大01-025314	陶磁器製組立流し	明45.4.4	加藤八百蔵	記述なし	不明
実公大02-026909	軽便折掛流し台	明45.3.29	飯田寅吉	記述なし	不明
実公大10-056587	駒崎式流し	大9.2.18	駒崎朝治郎	記述なし	コンクリート
実公大10-061627	スワ式流し	大10.9.17	諏訪政治郎	記述なし	コンクリート(中にゴムを引いたもの)
実公大11-003653	流し	大11.8.14	皆川民次郎	考案者と同じ	陶器又はコンクリート
実公大11-003757	戸棚付流し	大11.8.15	浦木太郎	考案者と同じ	不明
実公大11-063634	勝手用具	大10.8.5	渡辺峰一	記述なし	亜鉛板(内部に陶器又は木材)
実公大12-004456	流水壺	大11.6.12	岡本五郎	考案者と同じ	木
実公大12-010800	折畳式ハシリ	大12.4.6	中塚末次	考案者と同じ	木製(ゴム板敷)
実公大12-011613	流し壺	大12.5.8	駒崎朝治郎	考案者と同じ	コンクリート又は人研石
実公大12-011614	流し壺	大12.5.8	駒崎朝治郎	考案者と同じ	コンクリート又は人研石
実公大12-011615	流し	大12.5.8	駒崎朝治郎	考案者と同じ	コンクリート
実公大13-001101	棚付折畳流し	大12.5.14	山田庄吉	考案者と同じ	不明
実公大13-001855	台脚畳込み流し	大12.11.26	藤田保次郎	考案者と同じ	金属
実公大13-004099	折畳自在流し	大12.4.27	城戸政吉	考案者と同じ	不明
実公大13-005133	組立式洗壺	大13.1.25	松居彦太郎	考案者と同じ	不明
実公大14-007720	台所用流し	大13.5.19	田敷保雄	考案者と同じ	不明
実公大14-010150	折畳式兼洗面台	大13.3.6	佐野敦雄	考案者と同じ	銅板・亜鉛
実公大14-010892	洗場流しの組立台脚	大13.9.9	和田伊三	考案者と同じ	不明
実公大14-012427	折畳流壺	大13.10.13	藤枝春一	考案者と同じ	不明
実公大14-013371	壺所用器物洗浄壺	大13.11.24	今井金蔵	考案者と同じ	不明
実公大14-014467	洗台	大13.10.13	吉田重高	考案者と同じ	金属
実公大14-014795	畳込流し	大13.10.27	吉田大作	考案者と同じ	亜鉛
実公大14-016816	蓋兼用水切板付流し	大14.2.18	殿村紳一	考案者と同じ	不明
実公大14-021745	壺所用戸棚	大14.3.3	中村清一郎	考案者と同じ	不明
実公大15-003020	流し	大15.3.16	月原安一	考案者と同じ	不明
実公大15-023704	組及洗槽を有する水屋	大14.7.17	渡邊卯之助	考案者と同じ	金属
実公大15-025098	組立人造石ながし	大14.5.29	細田貴一	考案者と同じ	セメント
実公大15-026275	洗桶付壺流し	大14.2.12	落合ヤス	考案者と同じ	金属
実公大15-027088	戸棚兼用決水槽	大14.10.12	山本銃太郎	考案者と同じ	金属
実公大15-028355	料理壺	大14.8.14	葛西久子	考案者と同じ	金属
実公昭02-000857	バケツ兼用組つき流し	大15.3.25	長谷川握一	考案者と同じ	金属
実公昭02-003516	割烹壺	大15.2.16	竹下英一	考案者と同じ	不明
実公昭02-005292	壺所流し	大14.2.3	高橋清治	考案者と同じ	不明
実公昭02-001005	割烹壺	大14.1.29	殿村誠一	考案者と同じ	不明
実公昭02-001780	洗米器附台流し	大14.5.23	落合ヤ弁	日本醸造機械株式会社	金属
実公昭02-001868	金属製洗桶兼用流し	大15.5.28	池田寅一	考案者と同じ	アルミニウム
実公昭02-006860	流し台	大15.3.31	石川彦三郎	考案者と同じ	コンクリート
実公昭02-007643	水槽附人造石流し	大15.2.22	加藤石太郎	考案者と同じ	不明
実公昭02-008593	折返し折畳自在なる流し	昭2.2.2	長谷川握一	考案者と同じ	不明
実公昭02-008950	洗滌用流壺	大14.11.12	伊藤幸太	考案者と同じ	不明
実公昭02-014561	流し台	昭2.7.6	鈴木徳太郎	考案者と同じ	不明
実公昭03-000038	洗滌機	昭2.5.18	村上良一	考案者と同じ	不明
実公昭03-001389	台所流し	昭2.12.16	高橋清治	考案者と同じ	不明
実公昭03-002104	折畳式流し台	昭2.3.22	行友徳四郎	考案者と同じ	金属
実公昭03-007384	冷蔵庫竝に水溜付き洗滌具	昭2.11.2	西村五郎	考案者と同じ	コンクリート
実公昭03-012045	流し台	昭3.8.22	鈴木徳太郎	考案者と同じ	コンクリート
実公昭04-000812	和洋兼用流し壺	昭3.7.5	中郷昌武	考案者と同じ	不明
実公昭04-001578	折畳式走りの壺枠	昭3.12.19	葛西 丑梧	考案者と同じ	不明
実公昭04-003425	流し台	昭3.7.10	貞永喜一	考案者と同じ	コンクリート
実公昭04-004191	冷蔵庫附料理壺	昭和4.1.23	鯉沼寅之助	考案者と同じ	不明
実公昭05-003434	魚料理台	昭4.12.13	稲木庄作	考案者と同じ	コンクリート
実公昭05-005744	割烹壺	昭4.12.19	堅地長太郎	考案者と同じ	不明
実公昭05-006123	家庭用流し台	昭5.2.16	奥田善吉	考案者と同じ	金属(外部アスファルト)
実公昭06-000683	流し台	昭4.9.25	辰巳正則	考案者と同じ	ブリキ
実公昭06-007103	壺所流し	昭5.3.20	新 正一	考案者と同じ	不明
実公昭06-007497	ゴムカバー付台所用流し	昭5.4.7	水間美不倭	考案者と同じ	木製(ゴム)
実公昭06-012376	流し	昭5.1.23	中島繁太郎	考案者と同じ	人研石
実公昭06-012931	流し台	昭5.11.9	三宅宗義	考案者と同じ	不明
実公昭07-001728	流し台	昭5.11.9	三宅宗義	考案者と同じ	不明
実公昭07-002611	折畳戸棚附流壺	昭5.7.10	矢野新一	考案者と同じ	不明
実公昭07-008255	湯沸付流し台	昭6.4.14	尾崎新治	考案者と同じ	不明
実公昭07-010091	セメント製分解式冷蔵庫具ふる各分割又は	昭6.5.29	末次源太郎	考案者と同じ	セメント
実公昭07-012828	組立式流し	昭6.10.3	原真一	考案者と同じ	陶磁製
実公昭07-013556	厨部用廃物整理?附洗盤	昭6.10.28	竹内常吉	考案者と同じ	金属
実公昭07-013849	組立流し	昭4.10.14	浅沼 浅太郎	考案者と同じ	金属
実公昭07-016665	炊事場用流し台	昭7.3.31	国生平次	考案者と同じ	金属
実公昭07-017594	流し台	昭6.8.8	西原金太郎	考案者と同じ	金属・セミメタル
実公昭08-002460	流し盤を取替へ得る組立流し壺	昭7.7.6	岡田允利	考案者と同じ	金属
実公昭08-006144	組立流し	昭7.9.28	山田良介	考案者と同じ	不明
実公昭08-007985	洗濯槽を有する流し	昭8.2.2	山品賢治	考案者と同じ	不明
実公昭08-012173	壺所用流壺	昭7.12.14	簗子梅吉	考案者と同じ	不明
実公昭08-014973	流壺	昭8.5.6	榎本又五郎	考案者と同じ	不明
実公昭08-015566	流し壺	昭8.7.3	末廣小太郎	考案者と同じ	不明
実公昭08-015788	折畳流壺	昭8.7.10	浅田潤次郎	考案者と同じ	不明
実公昭09-004177	飲料液冷却庫を具備する流壺	昭8.8.8	朝倉通夫	考案者と同じ	不明
実公昭10-009061	折畳用流板器	昭10.1.16	林勅	考案者と同じ	不明
実公昭10-006248	調理壺	昭9.6.27	川瀬末吉	考案者と同じ	金属
実公昭11-006012	高低自在流し	昭10.12.13	石橋忠男	考案者と同じ	金属
実公昭12-018022	洗濯槽	昭12.4.9	駒崎朝治郎	考案者と同じ	不明
実公昭13-000793	流し壺	昭11.12.8	原榮八	考案者と同じ	不明
実公昭13-002041	組立流し	昭11.11.20	山田良介、多木亮策	考案者と同じ	木製
実公昭13-016455	折畳式流壺	昭13.12.18	愛須亮三	考案者と同じ	不明
実公昭14-013466	冷蔵庫付流し	昭14.4.14	数下藤十郎	森清	不明
実公昭15-001154	「コンクリート」製流し	昭14.11.24	堀口金太郎	考案者と同じ	コンクリート製
実公昭15-001155	組板附流し	昭14.12.18	横山元治	考案者と同じ	金属

整理番号	名称	出願日	考案者	出願者	流しの材料
実公昭15-001780	流し受枠	昭14.12.12	堀口金太郎	考案者と同じ	コンクリート製
実公昭15-003120	流し	昭14.12.13	月原安一	考案者と同じ	不明
実公昭15-003574	組立流し	昭14.12.13	月原安一	考案者と同じ	不明
実公昭15-011945	炊事用具洗壺	昭15.5.22	永井せん	考案者と同じ	不明
実公昭15-013897	家庭用洗盤	昭15.7.13	角田善民	考案者と同じ	コンクリート製
実公昭16-010577	臺所流し	昭16.2.15	林清夫	考案者と同じ	人造石
実公昭16-010578	立流し	昭16.2.22	山口廣拾	考案者と同じ	アスファルト
実公昭17-007976	炊事用洗浄壺の組立壺枠	昭16.11.18	須本繁二	考案者と同じ	不明
実公昭18-011659	割烹壺	昭18.5.18	静岡青七	足立道三郎、外一名	セメント
実公昭25-000499	組立式金属製流し	昭23.6.21	井狩幸治	考案者と同じ	金属
実公昭25-000500	組立流し	昭23.10.8	山田良介	考案者と同じ	不明
実公昭25-001109	組立流し	昭23.10.8	山田良介	考案者と同じ	不明
実公昭25-001110	組立流し	昭23.6.9	篠原正雄	考案者と同じ	金属
実公昭25-002543	組立流し	昭23.10.8	山田良介	考案者と同じ	金属
実公昭25-004174	流し	昭23.12.16	山田良介	考案者と同じ	亜鉛鍍金板
実公昭25-008996	軽合金板製流し壺	昭24.11.25	高山捷二、國本巖	株式会社大阪アルミニウム製作所	アルミニウム
実公昭28-007564	水栓柱附流し	昭27.10.4	田中七太郎	考案者と同じ	木又はコンクリート又は鑄鉄
実公昭28-007970	流し	昭27.6.8	松浦静雄	考案者と同じ	不明
実公昭29-007967	台所用立流し	昭28.9.24	山田良介	考案者と同じ	不明
実公昭29-006235	調理流し	昭27.12.30	武藤吉一	考案者と同じ	木製(ゴム板敷)
実公昭29-009655	組立式台所用立流し	昭28.10.8	山田良介	考案者と同じ	不明
実公昭29-010162	流台	昭25.12.5	本橋文平	考案者と同じ	コンクリート製
実公昭30-000064	シンク	昭29.3.30	秋元時一郎	株式会社秋元商会	金属
実公昭30-001865	シンク	昭29.3.18	秋元時一郎	株式会社秋元商会	金属
実公昭30-007560	排水管接合部	昭28.7.22	川島重夫	考案者と同じ	不明
実公昭30-008380	台所用調理家具	昭28.5.11	鈴木助好	考案者と同じ	タイル張り
実公昭30-014280	食器洗機	昭28.12.19	丹波三郎	考案者と同じ	不明
実公昭31-004342	レンジ	昭27.10.9	ジョセフ・キンディツグ	考案者と同じ	不明
実公昭31-004954	調理用オープン皿受枠支持装置	昭30.2.26	菅野寺俊男	磯村産業株式会社	不明
実公昭31-008362	割烹台	昭30.6.1	八木喜之助	考案者と同じ	不明
実公昭31-009861	台所用流し	昭30.7.4	大塚四郎	昭和鋼機株式会社	18クロームステンレス<成型>
実公昭31-009872	瓦斯レンジ	昭29.1.18	秋元時一郎	秋元調理機器株式会社	不明
実公昭31-010456	組立式厨房台	昭30.10.29	南山育長	サンウェーブ工業株式会社	ステンレス
実公昭31-010683	調理台冷蔵庫	昭29.11.8	真鍋竹三郎	株式会社阪急百貨店	不明
実公昭31-016368	台所セントボックス	昭29.8.7	神立登一	考案者と同じ	不明
実公昭31-016666	陶製台所流し	昭30.9.30	桜川貞雄	東洋陶器株式会社	陶器

を選択し、住宅用流しとして関連する分野(厨房家具・システムキッチン及び流し・排水用設備)について1906年～1956年の範囲(A47B 77/00-77/18・E03C1/18)で検索を行い、「流し台」・「天板」に関する区分を抽出し、申請されたリストの本文中から、整理番号・名称・出願日・考案者・出願者・流しの材料を抜粋し、時系列にまとめた。

表1に示すように、台所に関する申請数は131件あり、流し台の流し素材に金属が含まれる申請は37件(亜鉛5件・金属注10)22件・ステンレス2件・アルミニウム2件・ブリキ1件・2種類以上の金属の併用2件)、コンクリート製が16件、人研石製が4件、タイル製が1件、木製が6件、不明が64件、陶器製が2件、その他が4件である。

また、戦前期と戦後期に分類して流しの素材別件数を表2にまとめた。表2では、表1を基に流しの素材・金属系素材の分類・施工法分類し、年代を戦前と戦後に分け、申請数を比較した。

さらに、流しに金属を使用した申請においては、申

表 2 特許・実用新案リスト分類表※特許庁データベースを元に作成

素材	分類	施工法	年代		総合計
			1906～1944	1945～1956	
金属系素材	亜鉛	溶接	4	1	34
		一体絞り	0	0	
		その他	0	0	
	金属	溶接	17	4	
		一体絞り	0	0	
		その他	0	1	
	アルミニウム	溶接	1	1	
		一体絞り	0	0	
		その他	0	0	
	ブリキ	溶接	1	0	
		一体絞り	0	0	
		その他	0	0	
	ステンレス	溶接	0	0	
		一体絞り	0	2	
		その他	0	0	
2種類以上の金属の併用		溶接	2	0	2
		一体絞り	0	0	
人造石		その他	4	0	4
タイル製			0	1	1
コンクリート製			15	1	16
陶器製			1	1	2
木製			5	1	6
その他			3	1	4
不明			51	13	64
合計					131

請物の解説の本文中から、溶接方法に関する記述を抜粋し、分類した。表を見ると、戦前期には流しの素材にコンクリートや金属素材を中心として素材や施工法等について、検討が重ねられていることがわかる。

これらの内容から、1955年以前の申請では、日本住宅公団が採用したステンレス流しのようにプレス機を用いて一体成型するという加工法を用いた申請ではなく、伝統的な板金技術を踏襲した施工技術であったことがわかる。

また、1906年～1944年の金属系素材の申請が締める割合は全体の24%(図2)と高い割合を占めている。しかし、その施工法は従来の板金技術を踏襲した内容であり、他の素材に比べ高価な金属を2種の金属で併用したり、板状に切り出す等の改良を加えて、流しの素材に使用していたことがわかる。

流しの素材にステンレス素材が登場するのは、S社と日本住宅公団が納入契約を結んだ1956年であり、ステンレスを使用した申請が2件行われている。2件中1件はS社による申請で、もう1件は昭和鋼機株式会社による申請である。その施工法は「本案は18クローム板製で而かもプレス加工により工作されていて障害物が無いから・・・^{注7)}」と記述されており、いずれもプレス機を用いて一体成型する施工法である。つまり、1956年頃にはS社以外の企業においても、プレス機を使ったステンレス流しの開発が試みられていたことがわかる。

しかし、S社以外の企業においては、戦後の材料不足の影響で、思うように開発を行うことができず、ステンレス流しの大量生産化は困難であったと考えられる。

それに対し、S社は日本住宅公団との契約によって受注量が大幅に増加した結果、大量生

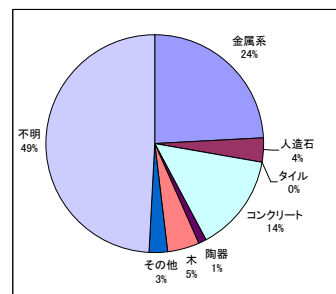


図 2 特許・実用新案素材別分析

※特許庁データベースを元に作成

産が可能になったと考えられる。

つまり、一般庶民への普及という観点から考察すると、大量生産されたステンレス流しの開発時期は1956年であることがわかる。

3. 『工芸ニュース』から見た流し台

3-1 『工芸ニュース』について

『工芸ニュース』は昭和7年6月28日より、商工省工芸指導所^{注3)}の編集で工政会から創刊され、国内および海外の工芸技術や、デザイン事象等を克明に伝えている雑誌である。その内容は海外製品の紹介や商工省工芸指導所による、新しい素材を導入した工業製品の試作品等が紹介されている。本稿ではそれらの記事の内容を基にステンレス流しの記事における当時の位置づけを検討した。

3-2 『工芸ニュース』に記載されたステンレス流し

『工芸ニュース』に記載されたステンレス流しの記事は全部で3件ある。3件中2件は海外製のステンレス流しであり、1950年18巻18号に記載された「アメリカの台所」・1950年18巻11号に記載されたフランス雑誌『今日の建築』にステンレス流しが紹介されている。しかし、この記事には写真と解説のみでその施工法や詳細は記述されていない。

1949年17巻5号に「厨房設計の細部に就て」と題して、ステンレス流しについての記事が詳細に記載されている。この記事は17巻の特集「中小企業振興工藝展」の記事のなかで記述されている。これは工業指導所研究部設計課によって設計されたモデルハウスの設計手法、全体計画を特集した内容であり、台所設計については配置・設備・収納計画等が記述されている。例えば厨房については「日本の婦人の體軀を基本として狭い面積で作業が圓滑に進められるように調理臺、流し臺、レンジ、食器棚、配膳臺が夫々平面、立面に合理的に構成され、配置されている。」と記述があり、台所空間に合理性や動線計画に留意して台所設計が行われていたことがわかる。また「流し、調理臺等はいささか贅澤のようであるが絶対的不銹性をもった十八・八クロームステインレススチールを使うこととし、其他は木材クリヤラッカー仕上げとして清潔で明るい部屋とした。」

という記述があり、この頃から台所空間に清潔感や明るさといったイメージが導入され、その具現化の方法としてステンレス流しが位置づけられていたことがわかる。しかし、この流し台の施工法は「ステンレス張り」からステンレス板を張り付ける施工法であったことがわかる。

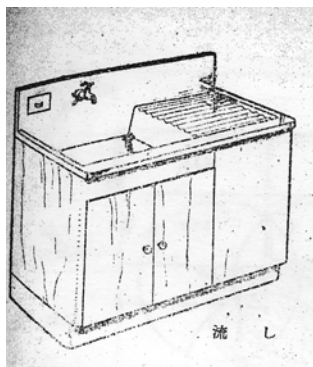


図3 工芸指導所試作「流し」
※『工芸ニュース』より

4 まとめ

以上、戦前のステンレス流しの変容過程における検

証結果を以下に示す。

①特許・実用新案においては、1956年以前の流し台の施工法は従前の板金技術を踏襲した施工法であり、プレス機を使った一体成型の流し台は、1956年以降から登場していたことがわかる。

②『工芸ニュース』においては、ステンレス流しは1949年の工芸指導所におけるモデルハウスが最初であった。当時のステンレス流しは「少々贅沢」と位置づけられており、一般庶民には手の届かない存在であったことがわかる。

以上のように、本稿では1956年以前のステンレス流しの特性について明らかにした。1956年以前の流し台の特性をまとめると、当時の流し台は造付けによる特注品であり、従来までの弱点を補う優れた素材として注目されていたが、一般庶民にとっては高価な品物であり、一般家庭への普及は困難な状況であったと言える。また、ステンレス流しがプレス機によって一体成型され、大量生産が可能になったのは1956年以降である。つまりS社が大量生産化に成功したことは、戦後の台所技術の変革に大きな影響を与えたことになり、特注品から既製品へのレディメイド時代を迎える画期的な出来事であったと言える。このように巨視的に見るならば、「ステンレス流し」の開発過程への検証は、戦後の技術開発・台所の発展史を明らかにする上で重要な意義を持ち得ると言える。

〔参考文献〕

- 1) 藤森照信：昭和住宅物語，新建築社，1990，3
- 2) 山本夏彦・玉村豊男・石毛直道・棚沢成明・栄久庵憲司・柴田献一・野口瑠璃・曾根真佐子・山口昌伴：台所空間学，筑摩書房 1985，7
- 3) 和田菜穂子：近代ニッポンの水まわり，学芸出版社，2008，9
- 4) 特許庁ホームページ：
http://www.jpo.go.jp/seido/s_tokkyo/chizai04.htm
- 5) 新建築，新建築社，1925～1956
- 6) 編集 商工省工芸指導所：工芸ニュース，工政会，1932～1956
- 7) 編集 サンウエーブ誕生30周年記念誌編集室：サンウエーブ誕生30周年記念誌，サンウエーブ工業株式会社，1985，3

〔注〕

注1) 本稿で取り扱う「ステンレス流し」の定義は、形状や装備に関わらず、ステンレス製の天板を用いた流し台のこと。S社においても総称して「ステンレス流し台」と呼称され、1947年に発売されたハンダ付けのステンレス流しは「ハンダ付けステンレス高級流し台」・本稿で対象としているプレス機を使った流し台は「ステンレス溶接流し台」と呼ばれ、製品によって呼び分けられている。

注2) 浜口美穂・藤森照信による『ステンレス流し台の生い立ち』、山口昌伴による『素材革命—台所を変えたステンレス、ガラス、プラスチック』、和田菜穂子による『近代ニッポンの水まわり』等

注3) 柳田伸幸『「一体絞り型シンク」の開発過程に関する研究』日本大学生産工学部第41回学術講演会2008梗概集、p181～184

注4) S社広報部より提供頂いた史料で、当時開発に携わった技術者、資料調達員が残した、それぞれA4ガリ版刷りで全7、16ページの史料である。

注5) 『見聞録』p.6

注6) 特許・実用新案データベースには、FI&FIターム（特許審査のための先行技術調査を効率的に遡って付与された審査用分類）用データベースとIPC（広報記載）用データベース（分類指定におけるIPCを検索する為のサービス）の二つが用意されている。

注7) 特許庁データベース、申請番号実公昭31-009861番参照。

注8) 商工省：過去の日本の中央官庁。1925年に農商務省を分割して設立された。商工省工芸指導所：商工省によって設置され、日本の技術である金工・木工・漆工・その他各種工芸産業の改善・発達を図ることを目的に設置された。過去にはステンレスを利用した工芸品等の研究を行っていた。